



平成30年度

NO.5

出前講座報告書

平成30年10月4日 会津保健福祉事務所

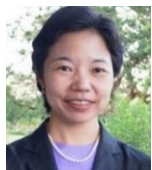
実践で使えるデータ分析 の知識とスキル

保健活動に活用できるデータ分析の基礎な知識と技術について学びました。会津地域の保健師さんや管理栄養士さんにご出席いただきました。

🍃 講義・演習の様子

講義では、データセットの作り方、代表値の特徴、主な検定方法、データの提示や解釈のポイントについて学びました。演習では、実際に事例問題をもとにOpenEpiを用いて、95%信頼区間、カイ2条検定を行いました。

～講師紹介～



福島県立医科大学
総合科学教育研究センター
後藤あや

平成7年山形大学医学部卒業、平成10年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程（国際保健学）修了、平成12年山形大学大学院医学研究科博士課程（公衆衛生学）修了。

米国ポピュレーション・カウンシルのベトナム支部勤務を経て、平成14年より福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、平成28年度より総合科学教育研究センター教授に就任し、現在に至る。平成24年から1年間、ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム研究員。福島県の県民健康調査「妊産婦に関する調査」の副室長兼任、日本公衆衛生学会モニタリング・レポートシステム委員。

専門領域は、母子保健、国際保健、疫学、人材育成。

	実施内容	確認事項
Step1 準備	データの 入力	入力したデータ (チェック)
Step2 分析	分析	分析の手順
Step3 解釈	結果解釈・ 提示	P値の解釈、 グラフの選択等

▲重要：データ分析のステップ
(講義資料にもとに作成した)



▲講義と演習により、楽しく進めることができました。

グループワークの様子

グループワークでは、育児中の母親のうつ傾向の事例問題について、分析し、全体で共有しました。日々の業務の中で95%信頼区間などを算出する機会はないと思います。今回のグループワークを通し、保健活動（事業）の計画に活用するプロセスを学びました。



▲グループワークに積極的に参加されていました。

* アンケート集計結果

参加者は21名、アンケート回収は20名でした。

評価項目	そう思う ¹⁾
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	95%
時間配分は適切だった	95%
進行は適切だった	95%
講義について	
講義内容が理解できた	85%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	95%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	100%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	60%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	70%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	35%

* 参加者の声 * (一部抜粋)

- すぐにでも活用できそうな内容でした。職場でみんなに伝えたいと思います。

* 復習ポイント *

- データの作り方
- データの示し方

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

編集後記

はじめはデータセットの作り方（入力方法など）がわからず、分析するまでに時間がかかっていました。これまで保健活動の企画・計画、成果をまとめる際に何度も分析を繰り返しました。現在は習得した知識を活用して、地域の健康課題を分析し改善するための対策を計画しています。（吉田）